

令和4年度教育計画							
科目名	ソサエティ 5.0 理解	授業回数	15	単位数	2	担当教員	尾崎聡
質問受付の方法：e-mail は osaki@owc.ac.jp、オフィスアワーは研究室（B308） 土 0910～1040							
教育目標と学生の学習成果	【教育目標】近未来社会の人間学 ※Society5.0 の技術的・情報学的な問題は ICT リテラシーの授業で学ぶ ①来るべきソサエティ 5.0（超スマート社会）の概要と特色を理解する。ソサエティ 5.0 とは政府が提案する「我が国が目指すべき近未来社会の姿」であり、科学技術基本計画に謳われている。コンピュータが作り出すシミュレートされたサイバー空間（仮想世界）と目の前の生々しいフィジカル空間（現実世界）が遊離するのではなく、個人や社会全体で上手に融合し、巨大で複雑な情報（ビッグデータ）に基づいて生産や生活が営まれるので、時間や労力の無駄がなく、長年の社会的課題（少子高齢化、地方の過疎・都市の過密、経済的格差、疾病予防…）を解決しようとするものである。我々の人間性や社会性がしっかりと確率していれば犯罪利用を防ぎ、人間性を最優先できる社会が実現することも夢ではない。 例えば現在でも家電製品、建物、乗り物、おもちゃなど日常的なものから、医療や介護の用具から兵器に至る特殊なものまで、あらゆるものに AI が搭載され、それらがインターネットでつながり、管理されている。これらに 5G(ファイブ・ジー、第5世代移動通信システム)が基盤として完全に整備され、4G の 10 倍の高速大容量・高信頼・低遅滞・多数同時接続が稼働する時、我々人間はどのような生活を営み、どのような人生を送るようになっているのか、次世代を担う子ども達にはどのような影響があり、保育者はどのような環境設定や教育をすればよいのか等についても考察し、将来の役に立てる。 ②人間とは何か、“現実空間からサイバー空間への移住”を求められようとしている人間は今後どのような存在になっていくのか、について知り、じっくりと繰り返し考え、大学生として必要な初歩的な教養形成をはかる。 【学生の学習成果】 専門的学習成果：将来、仕事をしながら生きていくのに必要な「課題発見力、解決力、コミュニケーション力」を身に着ける。 汎用的学習成果：仕事だけでなく、社会生活、家庭生活も含めた人生の営み全体に必要な「態度・信念・意見」と教養を身に着ける						
	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 担当教員が準備し、進行させていく講義である。受講生の専門領域を配慮して授業のラインナップを構成し、題材を準備する。授業中は対話という双方向的要素も取り入れて受講生の頭脳を活性化させながら進めていく。					
	予習・復習	1 単位 45 時間の計算によって、講義は 30 時間、演習は 15～30 時間の予習・復習を義務付ける。 学問の性格上、簡単には正解にたどりつけない。ゆっくり考えて良いし、何回も考え直してよい。すなわち、悩んだり迷ったりして消費した時間も予習復習時間に計算に入れて良いのである。					
	テキスト	特にテキストは指定しないが、毎回参考資料をプリントで配布する。					
教育方法							

学習評価の方法	【達成基準】 ①来るべきソサエティ 5.0（超スマート社会）の概要と特色、今後数十年間の人類の生活や人間の生き方、加えて次世代を担う子ども達への影響や保育者としての役割について理解している。（筆記試験の 50%＝知識） ②人類とは何か、人間とは何か、人間に求められる倫理や道徳は何かについて知り、じっくりと繰り返し省察出来ており、大学生として必要な初歩的な教養が形成されている。（筆記試験の 50%＝倫理） 以上を筆記試験において証明すること。 【試験方法について】 自筆ノート（ルーズリーフはバインダーから外してクリップ等で留める）持ち込み可。 【評価方法】 ・専門的学習成果 筆記試験：授業領域に関する用語や事例の説明および数百字の論述を課する（70%） シャトルカード：授業領域等への興味・関心、理解について評価に入れる（30%） ・汎用的学習成果 授業態度を評価する。但し、半期における人間的成長についても配慮する。
注意事項	参考図書は古今東西の名著から折に触れて指示する

	授 業 回 数 別 教 育 内 容
1 回	■映像におけるソサエティ 5.0 （例）政府広報「Society 5.0」Cast 上白石 ■講義内容：ソサエティ 5.0（Society5.0）とは何か ①ソサエティ 5.0 の意味（歴史的意味） ・ソサエティ 1.0 狩猟社会 技術革新＝道具による狩猟、キャンプ生活、移動しながら暮らす ・ソサエティ 2.0 農耕社会 技術革新＝食料の増産と貯蔵、村を作る、定住する、城壁を造る、戦いの激化 ・ソサエティ 3.0 工業社会 技術革新＝蒸気機関と内燃機関の発明、自動車や飛行機で世界を移動する、地球規模の戦い、宇宙空間への進出 ・ソサエティ 4.0 情報化社会・スマート社会 技術革新＝コンピュータとインターネット、家に居ながら世界とつながる ・ソサエティ 5.0 超スマート社会 技術革新＝A I・V R・ロボット、現実空間から旅立ち仮想空間で暮らす、2030 年頃か或いは 2050 年頃の世界 ②ソサエティ 5.0 のイメージ（どんな生活になっていくか） ■作業 ①親しみを覚える具体例を書き出してみよう。（例）IoT（Internet of Things インターネットにつながった冷蔵庫）、AI(Artificial Intelligence 人工知能)、ロボット（robot 人に代わって労働する機械） ②“スマート”という言葉の意味と実例を検索してみよう。賢い、おしゃれ、ハイテクな、精密で高感度な、情報処理機能を持った、高度に知的な… ■考察 ソサエティ 5.0 の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）身代わりロボット（自分の代わりに学校に行ってくれる→自分の代わりにコンサートに行っていくくれる→自分の代わりにデートしておいてくれる…） ■今日のソサエティ 5.0 アプリ（例）保育業務スケジュール管理アプリ「ほいっくまシフト」 ■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。

2 回	■映像におけるソサエティ 5.0 ■講義内容：ソサエティ 5.0（超スマート社会）の前段階、ソサエティ 4.0（情報化社会、スマート社会）のこと ■作業：①情報社会の意味と実例を検索してみよう ②親しみを覚える具体例を書き出してみよう。（例）インターネット、掲示板、ブログ、SNS、オフ会、ネットゲーム、コントローラー（左右の6本指を自由に操る子供たち） ■考察：情報社会の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）ユートピア、サイバーパンク、ネット予約 ■今日のソサエティ 5.0 アプリ ■復習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。
3 回	■講義内容：ソサエティ 5.0 と ICT（Information and Communication Technology）、IT は情報技術、ICT は情報通信技術（技術の“使い方”まで範囲に入る） ■作業：①IT と ICT の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを覚える具体例を書き出してみよう。 ■考察：IT、ICT の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例） ■今日のソサエティ 5.0 アプリ ■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。
4 回	■講義内容：ソサエティ 5.0 と IoT（Internet of Things） 情報・知識の共有 ■作業：①IoT の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを覚える具体例を書き出してみよう。（例）自動操縦、自動車のインターネット化、旅先からスマホで遠隔操作できる猫トイレ…、 ■考察：IoT の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）旅先からスマホで家の中をモニタリングする、子どもや認知症高齢者の現在地や行動履歴を常時監視できる GPS アイテム、子ども・家族…ペット…恋人の常時監視 ■今日のソサエティ 5.0 アプリ ■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。
5 回	■映像におけるソサエティ 5.0 ■講義内容：ソサエティ 5.0 と AI（人工知能） 情報分析の負担軽減 ■作業：①AI（Artificial Intelligence）の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを覚える具体例を書き出してみよう。（例）お掃除ロボット（ルンバ）、自動運転、Siri（Speech Interpretation and Recognition Interface）、感情のあるロボット Pepper（ペッパー）、将棋 AI（PONANZA） ■考察：AI の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。 ■今日のソサエティ 5.0 アプリ ■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。

6 回	■映像におけるソサエティ 5.0 ■講義内容：ロボット、無人ロボット・支援ロボット→労働環境改善と危険回避 ■作業：①ロボット（robot）の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）ロボット（人に代わって労働するタイプ、人間が働かなくてもよい）、アンドロイド（容姿を誰かにそっくりに作っているタイプ、死んだ人の代わり）、オートマタ（自動人形、自分の意思はないタイプ、外形は重視）。 ■考察：ロボットの善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）介護支援ロボット、保育支援ロボット、ロボット兵士 ■今日のソサエティ 5.0 アプリ ■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。■映像におけるソサエティ 5.0
7 回	■映像におけるソサエティ 5.0 ■講義内容：ソサエティ 5.0 と映像技術 VR/AR/MR/SR VR (Virtual Reality) 医療支援 VR ソフト「オザイリクス」(OsiriX) 内臓を 3D で表現し医師・看護師・技術者でイメージ共有、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」(VR ソフトと組み合わせてミリ以下の手術、GPS で臓器の裏側まで把握) ■作業：①VR の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）観光客誘致、名古屋城問題、「お城の天守閣を木造復元するのがよいか、スマホをかざして AR で、あるいはゴーグルを付けて VR で出現させて、戦場体験までできるのがよいか」 ■考察：VR の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）3D 画像を使った手術支援ロボット（ダ・ヴィンチ）、ゲーム依存、引きこもり ■今日のソサエティ 5.0 アプリ ■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。
8 回	■映像におけるソサエティ 5.0 ■講義内容：ソサエティ 5.0 と輸送技術、ドローン（drone 蜂）、輸送物流効率化と地域格差是正 ■作業：①ドローンという言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）トイドローン、ドローン芸人、宅配ドローン、『スローな武士にしてくれ』（NHKのクロンスタッフが 4 K スーパースローカメラを搭載したドローンで撮影する） ■考察：ドローンの善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）災害救助ドローン、医療ドローン、殺人ドローン、無人戦闘航空機、観光ドローン ■今日のソサエティ 5.0 アプリ ■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。
9 回	■映像におけるソサエティ 5.0 ■講義内容：ソサエティ 5.0 と情報の作られ方、ビッグデータ、（例）携帯電話位置情報から地域住民の動きを把握（コロナウィルス感染対策）→都市封鎖、購入履歴・閲覧履歴→購入提案（刻々と入ってくる商品情報→あなたはこの商品を買うべき！）、信用調査（瞬時にカード作成）、クラウドからのデータ入手、 ■作業：①ビッグデータ言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）PASMO、Suica、ICOCA、ドライブカメラ ■考察：ビッグデータの善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）マイナンバー、若者定住、 ■今日のソサエティ 5.0 アプリ ■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。

10 回	■映像におけるソサエティ 5.0 ■講義内容：ソサエティ 5.0 と生活アイテム （例）ウェアラブル、モニタリング ■作業：①ウェアラブル言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）スマートウォッチ、GPS 内蔵の学生服、服のディスプレイ化、ウェアラブル端末 Mof Band ■考察：ウェアラブル、モニタリングの善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）ウェアラブル健康管理アイテム、子どもや恋人の常時監視 ■今日のソサエティ 5.0 アプリ ■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。
11 回	■映像におけるソサエティ 5.0 ■講義内容：ソサエティ 5.0 と仕事・人生 （例）在宅勤務、テレワーク（Tele Work）、リモートワーク（Remote Work）、サテライトオフィス ■作業：①在宅勤務の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）新海作品『秒速 5 センチメートル』の主人公（心を病んだあと、在宅勤務） ■考察：在宅勤務の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。 ■今日のソサエティ 5.0 アプリ ■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。
12 回	■映像におけるソサエティ 5.0 ■講義内容：ソサエティ 5.0 と地域創生、地域連携 ■作業：①“地域創生”“地域連携”という言葉の意味と実例を検索してみよう。 ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）過疎、過密、『ポツンと一軒家』、スラム街、田舎生活、山村留学、『人生の楽園』、『ドキュメント 72 時間』 ■考察：地域創生、地域連携の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。 ■今日のソサエティ 5.0 アプリ ■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。
13 回	■講義内容：ソサエティ 5.0 の便利さとプライバシー問題、（例）デジタルツイン ■作業：①“デジタルツイン”という言葉の意味と実例を検索してみよう。 ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例えばスマホの位置情報と買い物データだけでも、特定個人のプライバシーをほぼ推測できる。住まい・職場・遊び場など、趣味嗜好はもちろん、買い物中毒か、パチンコ中毒か、異性関係、転職予定か…など未来予測的なことまで様々なことが把握できる） ■考察：デジタルツインの善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。 ■今日のソサエティ 5.0 アプリ ■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。

14 回	■映像におけるソサエティ 5.0 ■講義内容：ソサエティ 5.0 と未来の芸術、AI 自動作曲、AI 自動振り付け ■作業：① ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例)、 ■考察：スマートの善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。 ■今日のソサエティ 5.0 アプリ ■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。■映像におけるソサエティ 5.0
15 回	■映像におけるソサエティ 5.0 ■講義内容：ソサエティ 5.0 と人間存在について デジタル化する身体、デジタル人格、デジタル来世（死後もデジタル化した自分がアバターで生き続ける） ■作業：①ソサエティ 5.0 時代の文学・音楽・映画は“AI が創造して AI が鑑賞する”、すなわち人間は何もしない、これで面白いのか？考えてみよう ②興味を感じる具体例を書き出してみよう。 ■考察：人類や人間が行ったり発明してきた善と悪について考えてみよう。(例) 技術開発、環境破壊、兵器の発明、文芸の創造、単なる生殖でなく愛という価値の創造 ■今日のソサエティ 5.0 アプリ ■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。

令和4年度教育計画							
科目名	情報処理基礎	授業回数	15	単位数	2	担当教員	納庄 聡
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）：授業終了後					e_mail：nosho@owc.ac.jp		
教育目標と学生の学習成果	教育目標： AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる人材を養成するために、下記項目について修得することを到達時の目標とする。 ● コンピュータの基本構成や仕組みについて説明できる ● コンピュータでのデータの表現について説明できる。 ● 様々な情報技術について仕組みや役割について説明できる。 ● ICT 活用を問題解決の手順について説明できる。 学生の学習成果： 教育目標に記載した 4 つの汎用的学習成果と情報リテラシーや数量的スキル、論理的思考力について授業を通して獲得する。						
	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) テキストやプリントを配布して授業を行う。授業の形式は講義と演習を行う。適宜、演習や練習問題を実施して、学習内容の定着を図る。 授業終了時に LMS 等による振り返り（本時の学びや感想・質問等）の記述を求める。振り返りにより学習理解状況を確認しながら授業を進める。					
教育方法	予習・復習	予習事項：各回の授業前にテキスト等に目を通し、学習内容を把握しておく。(90 分) 復習事項：各回の授業でその内容のポイントを示すので、テキスト等の見直しや整理をする。(90 分)					
	テキスト	國友義久：2011『IT の基礎』近代科学社					
学習評価の方法	定期試験（50 点） 授業内での小テスト及び振り返りレポート（50 点）						
注意事項							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション シラバス、授業の進め方、成績評価について、コンピュータの歴史、電子メール 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
2 回	コンピュータの基本構成と入出力装置 ハードウェア・ソフトウェアの役割と性能、入出力の形態 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
3 回	プロセッサの仕組みと性能評価 プロセッサの仕組みと役割、プログラムの実行とプロセッサの実行と命令 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
4 回	データの表現① アナログとデジタル、2進数、10進数、16進数 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
5 回	データの表現② 画像・音声・文字の表現 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
6 回	補助記憶装置 補助記憶装置の役割と機能、磁気・光ディスク 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
7 回	入出力インタフェース 入出力インタフェース、インタフェースとの種類 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
8 回	オペレーティングシステム オペレーティングシステムの役割と機能 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。

9 回	アプリケーションソフトウェア 共通・個別アプリケーションソフトウェア 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
10 回	データベース データベースの概念と必要性、関係データベース 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
11 回	ネットワーク 通信ネットワークシステムの基本構成 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
12 回	インターネット インターネットの仕組みと通勤規約 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
13 回	情報セキュリティ 情報セキュリティの必要性と対策、脅威と脆弱 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
14 回	ICTを活用した問題解決 問題解決の基本的な手順、コンピュータの役割 予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
15 回	学習の振り返りとまとめ 学習内容の全範囲について総合的に見直す。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。

令和4年度教育計画							
科目名	情報処理演習	授業回数	15	単位数	1	担当教員	納庄 聡
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）：授業終了後 e_mail：nosho@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	教育目標： AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる人材を養成するために、下記項目について修得することを到達時の目標とする。 ● レポートの作成と編集ができる ● 表計算ソフトを活用し、情報の整理や活用ができる ● プレゼンテーションに関する基礎知識について学ぶ。 ● 毎分 30 文字以上のタッチタイピングができる。 学生の学習成果： 教育目標に記載した 4 つの専門的学習成果と情報リテラシーや数量的スキル、論理的思考について授業を通して獲得する。						
	教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) テキストやプリントを配布して授業を行う。授業の形式は講義と演習を行う。適宜、演習や練習問題を実施して、学習内容の定着を図る。 授業終了時に LMS 等による振り返り（本時の学びや感想・質問等）の記述を求める。 振り返りにより学習理解状況を確認しながら授業を進める。				
予習・復習		予習事項：各回の授業前にテキスト等に目を通し、学習内容を把握しておく。(45 分) 復習事項：各回の授業でその内容のポイントを示すので、テキスト等の見直しや整理をする。(45 分)					
テキスト		杉本くみ子、大澤栄子；2019『30 時間アカデミック Office2019』実教出版					
学習評価の方法	授業内での各回の課題及び振り返りレポート（80 点） タイピング（20 点）						
注意事項							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション シラバス、授業の進め方、成績評価、基本操作、タイピング 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
2 回	文章の作成 文章の編集やレイアウトの設定 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
3 回	レポートの作成と編集 レポート作成の基本的な流れ 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
4 回	レポートの作成と編集 収集した情報の引用 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
5 回	レポートの作成と編集 レポートの構成と章立て 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
6 回	データの入力・編集 データの基本、データの入力や編集 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
7 回	表の作成 基礎的な関数や書式 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
8 回	いろいろな数式 応用的な関数 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。

9 回	グラフと図形 グラフの作成とその特徴 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
10 回	グラフの活用 グラフの効果的な表現方法 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
11 回	プレゼンテーションの作成 プレゼンテーションの基本、スライドの作成 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
12 回	プレゼンテーションの作成 プレゼンテーションのストーリーの組み立て方 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
13 回	図やオブジェクトの挿入と編集 図やオブジェクトの挿入と編集 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
14 回	特殊効果とスライドショーをサポートする機能 アニメーション、リハーサル 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
15 回	学習の振り返りとまとめ 学習内容の全範囲について総合的に見直す。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。

令和4年度教育計画							
科目名	ICTリテラシー (A)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	納庄 聡
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 授業終了後 e_mail : nosho@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 : AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる保育者を養成するために、下記項目について修得することを到達時の目標とする。 ● 毎分 40 文字以上のタッチタイピングができる。 ● ワードやエクセルの基本操作を身に付ける。 ● Society 5.0 の基礎について知る。 学生 ^の 学習成果 : 教育目標に記載した 3 つの専門的学習成果と情報リテラシーや数量的スキル、論理的思考について授業を通して獲得する。						
	教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) テキストやプリントを配布して授業を行う。授業の形式は講義と演習を行う。適宜、演習や練習問題を実施して、学習内容の定着を図る。 授業終了時に LMS 等による振り返り (本時の学びや感想・質問等) の記述を求める。振り返りにより学習理解状況を確認しながら授業を進める。				
予習・復習		予習事項 : 各回の授業前にテキスト等に目を通し、学習内容を把握しておく。(45 分) 復習事項 : 各回の授業でその内容のポイントを示すので、テキスト等の見直しや整理をする。(45 分)					
テキスト		杉本くみ子、大澤栄子 ; 2019『30 時間アカデミック Office2019』実教出版					
学習評価の方法	① タッチタイピングテスト (30 点) 各回の授業のはじめにタイピングテストを行う。毎分 30 文字以上を合格とする。 ② ワード演習テスト (25 点) ③ エクセル演習テスト (25 点) ④ Society 5.0 の基礎に関するレポート (20 点)						
注意事項							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション・タイピング練習 シラバス、授業の進め方、成績評価について、タイピング 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
2 回	ページ設定と文章の印刷、文章の編集 Wordの基本操作の確認と印刷、いろいろな書式設定 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
3 回	表の作成 表のある文書作成 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
4 回	表現力をアップする 画像や図形の挿入 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
5 回	複合問題 知識の定着を図る 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
6 回	基本操作と表の印刷 Excelの基本操作の確認、表の作成と印刷 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
7 回	いろいろな数式 便利な関数 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
8 回	データベースの利用 データの並べ替え、抽出 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。

9 回	複合問題① 知識の定着を図る 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
10 回	複合問題② 知識の定着を図る 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
11 回	エクセル演習テスト、Society 5.0 エクセル演習テスト、Society 5.0 予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
12 回	Society 5.0の基礎①-国の視点から 統合イノベーション戦略2020 予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
13 回	Society 5.0の基礎②-地域の視点から SDGs未来都市 予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
14 回	Society 5.0の基礎③-保育者の視点から 保育ICTサービス 予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
15 回	レポートの作成の実際 Society 5.0の基礎を踏まえたレポート作成 予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。

令和 4 年 度 教 育 計 画							
科目名	ICT リテラシー(B)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	納庄 聡
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）：授業終了後					e_mail：nosho@owc.ac.jp		
教育目標と学生の学習成果	教育目標： AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる保育者を養成するために、下記項目について修得することを到達時の目標とする。 ● 毎分 50 文字以上のタッチタイピングができる。 ● アンケートの作成、データの分析、整理ができる。 学生の学習成果： 教育目標に記載した 2 つの専門的学習成果と情報リテラシーや数量的スキル、論理的思考について授業を通して獲得する。						
	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) テキストやプリントを配布して授業を行う。授業の形式は講義と演習を行う。適宜、演習や練習問題を実施して、学習内容の定着を図る。 授業終了時に LMS 等による振り返り（本時の学びや感想・質問等）の記述を求める。振り返りにより学習理解状況を確認しながら授業を進める。					
教育方法	予習・復習	予習事項：各回の授業前にテキスト等に目を通し、学習内容を把握しておく。(45 分) 復習事項：各回の授業でその内容のポイントを示すので、テキスト等の見直しや整理をする。(45 分)					
	テキスト	杉本くみ子、大澤栄子；2019『30 時間アカデミック Office2019』実教出版					
学習評価の方法	① タッチタイピングテスト（30 点） 各回の授業のはじめにタイピングテストを行う。毎分 40 文字以上を合格とする。 ② アンケートの作成・分析（40 点） ③ 成果発表（30 点）						
注意事項	参考図書 相澤裕介：2019『統計処理に使う Excel 2019 活用法—データ分析に使える Excel 実践テクニック—』カットシステム						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション シラバス、授業の進め方、成績評価、タイピング 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
2 回	アンケート調査の種類と実際 様々なアンケート調査 予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
3 回	Excelの基本操作① アンケートに関する表の作成、基本的な関数 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
4 回	Excelの基本操作② アンケートの集計に便利な関数 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
5 回	アンケート調査と分析 アンケート調査と分析 予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
6 回	アンケート作法とWebアンケート作成 様々なアンケートと尺度、WEBを用いたアンケート作成方法 予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
7 回	アンケート調査 互いに作成したアンケートに回答 予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
8 回	アンケート集計と整理 集計やグラフの作成 予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。

9 回	アンケート分析① 集計したデータの分析 予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
10 回	アンケート分析② 成果をまとめる 予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
11 回	スライドの作成 結果からスライドの作成 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
12 回	発表練習 少数に分かれてのリハーサル 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
13 回	成果発表① アンケートの成果をスライドで発表する 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
14 回	成果発表② アンケートの成果をスライドで発表する 予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。
15 回	学習の振り返りとまとめ 学習内容の全範囲について総合的に見直す。 復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。